



JR津田沼駅周辺地域
まちづくり検討方針
【概要版】

平成28年3月
習志野市

1. 検討方針の策定にあたって

本市では、平成 26 年度を初年度とする基本構想において、JR 津田沼駅周辺地域（新津田沼駅周辺地域を含む）を市の表玄関として位置付け、ふさわしい駅前空間の機能を更に充実させるとともに、高度な土地利用を図り、文化的で活気あふれる都市空間づくりに努めることとしています。

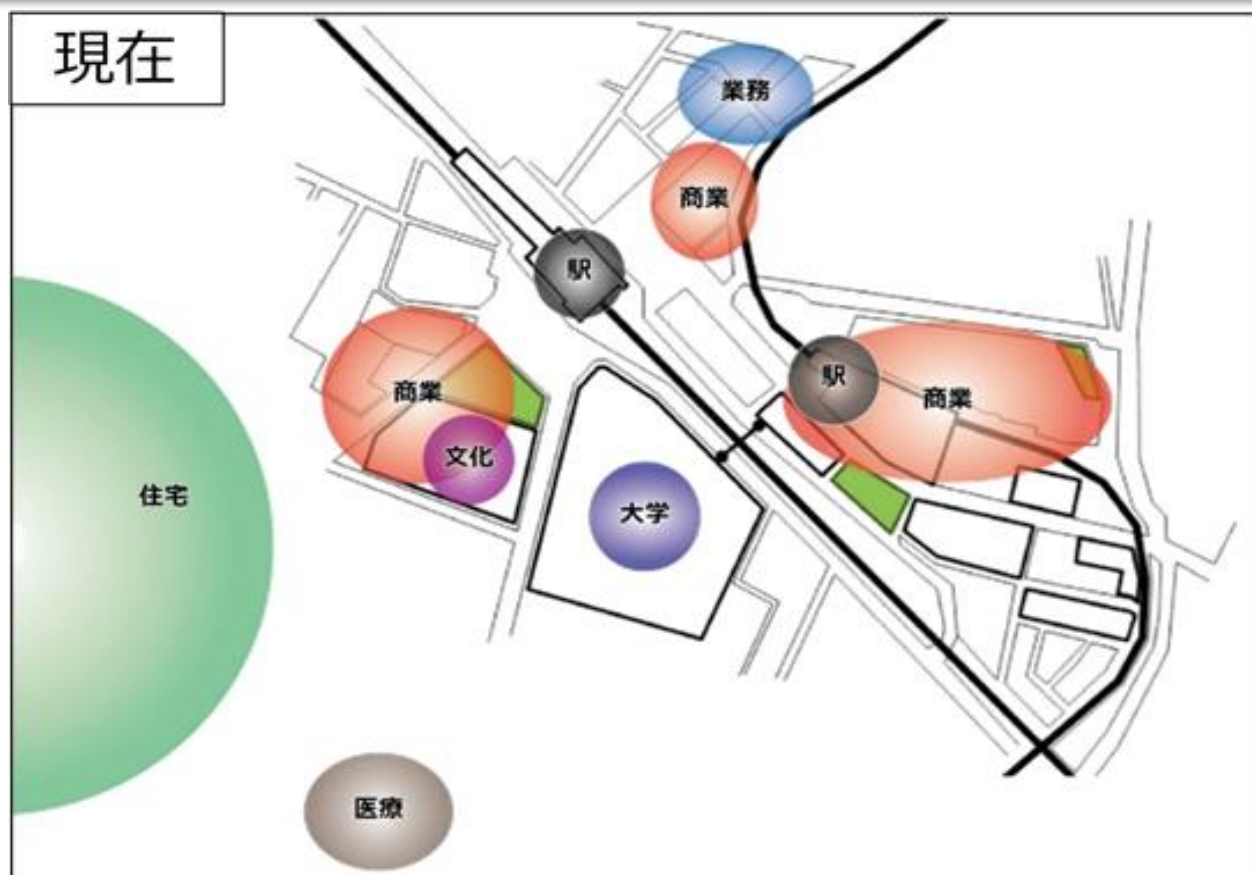
現在、同地域は、奏の杜の「まちびらき」等により、更なる成長を遂げようとしています。地方創生の進展や地域間競争の活発化など、同地域には一層の魅力向上が求められています。

こうした中、地域を一体的に捉え、将来のまちづくりについて検討する必要があることから、JR 津田沼駅及び新津田沼駅から概ね半径 500 メートル圏域の状況を勘案し、両駅の駅前空間及び両駅を結ぶ地域を中心としたまちづくりの方向性を示すため、ふさわしいまちのイメージと求められる機能を整理したものです。

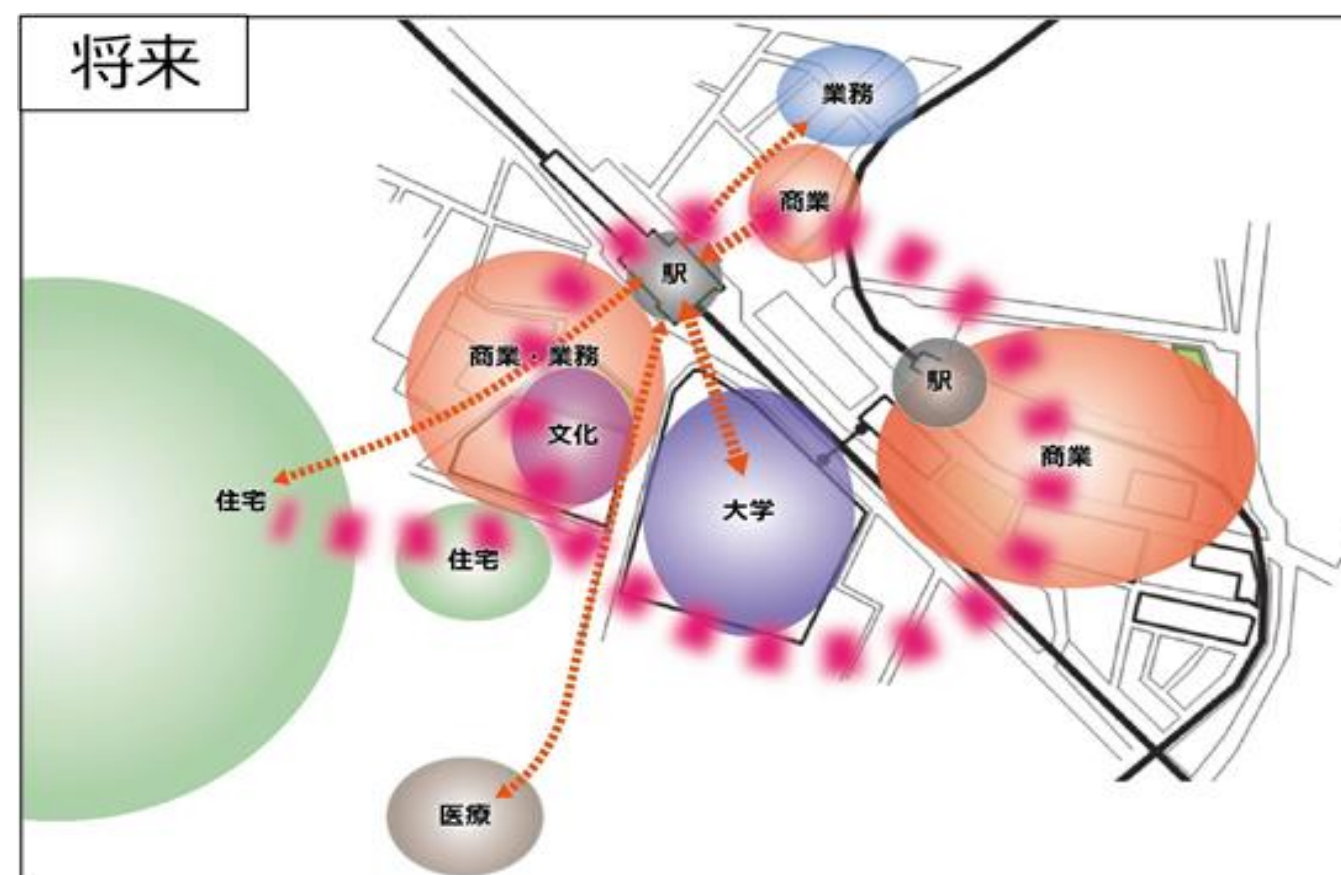
JR 津田沼駅周辺地域のまちのイメージ

「いいね！駅近

歩きたいまち」



現在の JR 津田沼駅周辺地域は商業集積が高く、公共ホールや大学が立地していますが、地域全体の回遊性や各施設間の回遊性、公共交通機関どうしの乗換え利便性などに課題があります。



将来は、商業機能や文化機能、教育（大学）機能など既存の強みを回遊機能等により更に強化するとともに、業務機能や居住機能などを新たに付加することにより、賑わいと活気あふれる地域が実現されます。

2. まちのイメージについて

JR 津田沼駅周辺地域の位置付けを踏まえつつ、現状分析、実態調査、類似駅周辺地域との比較、まちづくりに密接に係る産・学の関係者からの意見や要望等を把握した上で、今後の同地域に求められるまちのイメージを「歩きたいまち」として描きました。

■ 具体的なイメージ例

- ・ 誰もが歩きたく安全で快適な歩行空間を備えたまち
- ・ 目的地まで迷わず歩ける歩行空間を備えたまち
- ・ 魅力的で個性ある商業施設や公共スペースを備えたまち
- ・ 生活施設や公共交通機関へ快適にアクセスできるまち

同地域は、「歩きたいまち」としての機能が充実することにより、「訪れたいまち」・「住みたいまち」への発展も期待されます。

3. イメージの実現に向けて求められる機能

(1) 時間消費機能

まとまった時間、まちに有意義に滞在することのできるような施設や空間

(2) 交流創出機能

高齢者や子どもなど多様な人々が交流することができるような施設や空間

(3) 高品質な空間創出機能

その風景や施設があることで、このまちをふたたび訪れたいような施設や空間

(4) 回遊機能

まちをスムーズに移動でき、回遊することが可能となるような施設や空間

(5) 交通結節機能

広域拠点として交通手段どうしの乗換えが抵抗なくできるような施設や空間